

小学校では水泳の学習や宿泊行事の準備に、中学校では部活動の引継ぎや今後の大会にまだまだ忙しい時期ですが、1学期もまとめになります。子どもたちが学級での生活を振り返り、それぞれのよさやがんばりを自覚し、これからの目標もてるようにして、夏休みを迎えましょう。また、1学期の学級づくりについての成果と課題を明らかにし、2学期の指導につなげましょう。



<小学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

子どもの心に届く褒め方・注意の仕方

学校生活のなかで、子どもを褒めたり、注意したりする機会の多い教師。あなたはどんなことを意識していますか？

小さな声で

「ありがとう」「先生うれしかったよ」
「〇〇さんがいてくれてよかった」



私たちは、子どもが何かできた時に大きな声で「すごい!」「えらい!」と褒めがちです。でも、生活のなかのふとした場面で、一人一人に上記のような言葉をかけていくことも、**自己肯定感・自己有用感を高めていくことにつながります。**

廊下を走る子どもに

「歩いているように見えないなあ」



学校生活のなかの危険を避けるために、注意する時もあります。そのようなときは、子どもが**ふと我に返るような注意の仕方**を意識していきたいですね。

自己の役割を自覚できる活動に
なっていますか？

係活動、当番活動は、仲間と共に活動することによって、学級での生活が成り立っていると感じる事ができる活動の場です。さらに、学級の一人としてみんなから必要とされているという認識を育むこともできます。そうした大切な係活動、当番活動を活性化させ、評価できる場を工夫しましょう。

①係づくり

- ・目標を明確に…何のために係を組織するのか
- ・取組みたくなる係に…子どもの得意なことを生かす
- ・係名の工夫…子どものユーモアで注目度UP!

②活動時間の確保

- ・計画的に…いつ、誰が、何を、どうするのか
- ・活動の見える化…掲示板、係アイテム等の活用

③評価の場の設定

- ・自分での振り返り…係ファイル等の活用
- ・仲間との振り返り…係ごとまたは学級全体で相互評価する場の設定

<中学校>

キャリア教育の視点からみると

「愛」の反対は「無関心」

中学生って、ほめても喜ばないし、叱っても反省しているかわからないんだよね。

どうしたら上手に褒めたり叱ったりできるのかな？いい方法はないかな…。

思春期ど真ん中の中学生は、思いとは裏腹な感情表現をしてしまうことが多々あります。それを十分理解した上で、「いつもあなたに関心を寄せていますよ」というメッセージを常に伝えていきましょう。見ていてくれるという先生のまなざしやちょっとした言葉かけが生徒の心に**安心感**を生み、確かな**信頼関係**を築いていきます。

「提出ノート、続けているね」

“えらいね・いいね”などの評価の言葉を添えたくりますが、**行動そのものをさりげなく伝えること**だけで、見ているよ・認めているよという思いは伝わります。

自分のよさと課題を見つける職場体験学習

職場体験学習は、自己と社会、双方についての多様な気づきや発見ができる絶好の機会です。

生徒たちが、この体験についての目的意識をしっかりともって臨み、自己の変容を振り返ることが大切です。そのために、職場の方と次のような打合せをしてはどうでしょうか。

◇「体験日誌」に、自分の立てためあてに対する振り返りを書く欄を設けた上で、職場の方に、生徒の振り返りを読んで、無理のない程度で評価をしていただくをお願いします。

◇職場の方の評価の内容としては

「社会の一員としてはどうか」という視点で、記入していただく。それが、生徒が自己を見つめる機会となることを伝える。



職場の方の評価は生徒の心に強く刻まれます。生徒の実態に応じて、評価のつけ方の程度について個別に打合せをしておくことも大切です。